

2. 当該年度の主な事業

教育・研究条件の充実

3,352,402 千円

特色ある教育の充実をはかるために、教育・研究をより推進しました。

大学・短大部門では、教学マネジメントの確立に向けた取組みを加速するために不可欠となる「HUsystem」（教学 I R）の本格的な運用をスタートさせ、学生一人ひとりの学習成果を可視化できるようにしました。また、「教学アセスメントポリシー」の改定を行い、教育改善が図れる仕組みを構築しました。

研究面では、「日本地域共生ヘルスケア学会」（大学院看護学研究科）が創設され、研究科における研究基盤が形成されました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を引き続き受けつつも、前年度の経験を踏まえ、withコロナを受け入れ、教育の質の保証や入口及び出口対策など、教職員が一丸となって、「ハイブリッド型」の対応を行いました。

学生等福利厚生の充実

計 332,895 千円

・奨学金の充実

303,159 千円

経済的理由により修学が困難な学生及び学業ならびに課外活動等で優秀な成績を修め、就学意欲の顕著な学生等に給付した奨学金です。

・学生助育及び福利厚生

26,330 千円

活躍めざましい課外活動への補助、あるいは新入生のオリエンテーション、学生等の健康管理等、在学生活の充実体制を整えた費用です。

・キャリア教育支援

3,406 千円

就職支援、資格取得を重点課題として積極的に取り組んだ費用です。

教育環境の充実

計 415,936 千円

施設・設備の充実は在学生活を豊かにするという基本理念のもと、今後も本学園の歴史を未来に活かし、交流の場となるキャンパスづくりを推進するため、逐次充実を図ってまいります。

大学・短大部門では、「HUMANS (Hyogo University Multimedia Autonomous Network Systems)」の第2期整備事業として基幹サーバー及びネットワークの更新を行いました。また、図書館の空調機を省エネタイプの機器に取替更新をしました。

神戸国際中学校・高等学校では、新入生に、今年度より1人1台のタブレットPCの配布を行い、高校棟全教室に電子黒板を導入し、特別教室のWi-Fi環境の整備を行いました。

附属加古川幼稚園では、幼児の体力増強のため「キンダーの森」に空中歩道、大型遊具（エスカルゴ）を設置しました。

（※修繕費・清掃費・光熱水費・保険料等の管理維持費の費用を含んでいます。）

地域に開かれた学園づくり

116,950 千円

地域に対し、「地域に愛される睦」「質を重視する睦」を目指して、自治体・企業・地域住民等に向け、全学的に推進している共同研究、公開講座、公開授業等を広く社会にアピールした費用を含んでいます。

大学では、「エクステンション・カレッジ」の公開講座のオンライン化やリカレント教育を中心とした「リカレント講座」を加古川ヤマトヤシキ（JR加古川駅前）で展開しました。

国際交流の充実

613 千円

海外の学校との交流や海外研修制度の充実など、教育の国際化を積極的に推進するための費用ですが、コロナ禍対応の中、諸行事が中止となりました。

志願者数の確保

136,611 千円

安定した学生等確保の対策を強化し、より教育研究の向上を目指しました。

学校案内、広告料並びに、入試説明会・オープンキャンパス・個別校訪問、入学予定者対象の「フォローアッププログラム」や附属須磨ノ浦高等学校の兵庫大学附属校化プロジェクトなどを行った費用を計上しています。

神戸国際中学校では、前期コロナ禍で実施出来なかったオープンスクール等を人数制限して実施回数を増やすなど説明会を含めて対面型のイベントを増やしました。